

高等学校国語「現代文」学習指導案

平成25年10月30日 6時
第3学年7組 41名
授業者 重竹 雅行

1 科目 現代文

2 単元名 小説読解実践 芥川龍之介「蜜柑」全文 / 野呂邦暢「白桃」より（2003年度・センター試験）

3 単元設定の意図

今年度の熊谷高校3学年は、医歯薬系クラス1・理系クラス4・文理混合クラス1・文系クラス3の構成で、授業者は、文系生徒すべての現代文を担当している。1年間の学習を通して、現代文に関わる本質的な能力を身に付けつつ、進路希望の実現に向けて直接的に必要な、大学入試現代文での得点力を養成することを目標としている。その目標に基づいて、1学期の授業では、最終的にどのような問題に対応できるようにならなければいけないかを確認すべく、代表的な出題形式・設問形式を一覧した。最初に「センター試験」（評論・小説）、2つ目に「要旨要約」（一橋大学の過去問が素材）、3つ目に「私大現代文」（早稲田大学の過去問が素材）と学習を進め、最後に「記述論述」（東京大学の過去問が素材）と展開した。2学期に入ってから、様々なジャンルやテーマの文章や設問にできるだけ多く触れることを目指して演習を重ねているが、単純な演習形式の授業には問題点が少なからずある。マンネリズムに陥りやすいこと、たしかに読解力養成における限界、また、本文を主体的に把握したり、作品を味読したりするという、文章を読むことの根幹に関わる課題もあると認識している。

そこで今回は、センター試験の過去問を素材としつつも、与えられた設問に対して単に選択肢を選ぶことで解答するというのではない形で、生徒が本文と向き合う機会を用意したいと考え、授業を構想した。生徒にとって、比較的アプローチしやすいジャンルである小説を取り上げ、単に表面的なストーリーを掴むことにとどまらず、その小説らしい表現の特徴に注意を払いながら読解することを目指す。グループワークを取り入れることで、自信のない生徒も積極的に学ぶことができるよう配慮する。さらに、主体的に読解したその取り組みが、最終的には設問を解くことのベースにもなることを実体験させ、きちんと読むことが正しく解くことと直結するのだということを意識化させたいと考えている。

具体的には、2003年度のセンター本試験で出題された野呂邦暢「白桃」を題材とする。本文後半に出て来る「木犀」によって、小説世界が大きな変化を見せるというこのテキストの特徴に注目して、作品において「木犀」が果たす役割に意識を向けさせることにする。ちなみに、センター試験では、「木犀」の役割が設問として問われている。ただし、こうした表現の特徴や小説の〈方法〉を意識しての作品へのアプローチは生徒にとって難しい面があるため、事前のトレーニングとして芥川龍之介の「蜜柑」を学習することにした。これもまた、「蜜柑」の登場前後で小説世界が変転を見せるという点、「白桃」と重なる部分を持つからである。両作品は、語り手の質や嗅覚・視覚のいずれに訴えかけるかという違いこそあれ、小説内の小道具が、小説世界を動かしていく点で共通しており、今回の学習の目標を達成するために相互補完的な素材文と位置づけることができると考え、重ねて提示することとした。

4 単元の目標

- (1) 与えられた問に対し、個人またはグループで積極的に考えて、課題を解決することができる。
(関心・意欲・態度)
- (2) 小説を、その表現の特徴や〈方法〉に注目しながら、主体的に読み味わうことができる。(読む能力)
- (3) 読み取った事柄などを、適切にまとめて表現することができる。(書く能力)

5 単元の評価規準と学習活動における具体的評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 書く能力
単元の評価規準	積極的に課題を解決しようとしている。	小説の内容や表現の特徴を、的確にとらえている。	読み取った事柄を、適切に表現している。
学習活動における具体的評価規準	①グループ協議に積極的に参加し、読解や解答作成に前向きに取り組んでいるか。	②小説の、基本的な読解（ストーリーや人物の心情把握）が、正しくできているか。	③表現の特徴や小説らしい〈方法〉を注視し、その効果が理解できているか。
			④簡潔かつ明瞭に、読み取った事柄をまとめて表現できているか。

6 単元の指導と評価の計画（3時間扱い）

時	主な学習活動・学習内容	具体の 評価規準	教師の指導・援助	評価の実際 (評価の観点・方法)
1	芥川龍之介「蜜柑」 〔導入〕 ○単元の目標を確認する。 ○「蜜柑」というものの持つイメージを考える。 〔読解〕 ○小説「蜜柑」の読解作業を、分担してグループごとに取り組み、全体に向けて報告する。	ア－① イ－②	・小説の読解法に基づき、必要なマーキング作業を実践させる。	観察・ワークシート ○的確な読解ができているか。 【読むこと】 【Cへの手立て】 既習項目である小説の読解法を確認させる。
2	〔読解〕 ○小説における「蜜柑」の果たす役割を考え、それを簡潔にまとめる。 〔発展〕 ○〈象徴〉という概念について学習する。 野呂邦暢「白桃」 〔導入〕 ○「白桃」と「木屋」とが共通して持つイメージを考える。 〔読解〕 ○小説「白桃」の読解作業に各自で取り組んだ後、全体で共有する。	イ－③ ウ－④ イ－③ ア－① イ－②	・本文の根拠をふまえつつ、簡潔な表現でまとめさせる。 ・小説の〈方法〉として理解を深めるよう促す。 ・小説の読解法に基づき、必要なマーキング作業を実践させる。	観察・ワークシート ○小説の基本的な読解をふまえつつ、特徴的な表現まで深く読むことができているか。 【読むこと】 ○読み取った事柄を適切に表現しているか。 【書くこと】 【Cへの手立て】 本文の中での着眼点を指摘し、課題解決の糸口を示す。
3	〔読解〕 ○グループごとに、小説における「木屋」の果たす役割を考え、それを簡潔にまとめる。 ○他のグループの説明文を読み、そのように言える根拠となる表現を見つける。 〔発展〕 ○センター試験の実際の設問にチャレンジする。	ア－① イ－③ ウ－④ イ－③	・本文の根拠をふまえつつ、簡潔な表現でまとめさせる。 ・これまでの学習とは逆の思考過程を辿ることで、説明文が妥当であることを検証させる。 ・主体的な読みが、大学入試問題の解答の土台となることを実感させる。	観察・ワークシート ○小説の基本的な読解をふまえつつ、特徴的な表現まで深く読むことができているか。 【読むこと】 ○読み取った事柄を適切に表現しているか。 【書くこと】 【Cへの手立て】 芥川龍之介「蜜柑」で学んだことを活用するよう指示する。

7 本時の指導と評価の計画（2／3 時間目）

（1）本時の目標

前時までの、芥川龍之介「蜜柑」を用いた基本学習や、野呂邦暢「白桃」の基本的な読解作業を受けて、グループワークの形式で小説「白桃」における「木犀」の果たす役割について考え、それを簡潔な表現でまとめられるようにする。さらに、他のグループが作成した説明文を読み、それが妥当であると言える根拠となる表現を本文の中に見出すことにより、「具体→抽象」と「抽象→具体」という両方向の思考過程を辿ることを目指す。最後に、センター試験の実際の設問に取り組み、主体的な読みこそが正解に導いてくれることを確認する。

（2）本時の評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 書く能力
①グループで活発に協議して、適切な読解、より良い解答作成を目指しているか。	③小説の表現の特徴に注目し、本文に根拠を求めながら、小道具の果たす役割を読み取ることができるか。	④具体的に読み取った事柄について、解答としてふさわしい抽象レベルで、簡潔にまとめることができるか。

（3）本時の展開例

本時は、学習者が、8つのグループに分かれて学習を進めていく。グループの編制は、トランプを用いて機械的におこない、偶然的にできあがったグループで、協力して課題を解決していくことになる。

時	主な学習活動・学習内容	具体の 評価規準	教師の指導・援助	評価の実際 (評価の観点・方法)
導入 (5)	○本時の学習について、ねらい・具体的な内容・流れを確認する。 ○グループを編制し、所定の場所へ移動する。		《グループの編制と役割分担》 ◎ 1班～7班（各5名）・8班（6名）→ 計41名 ◎ 展開①では、1・2班が観点A、3・4班が観点B、5・6班が観点C、7・8班が観点Dについて、説明文をまとめる。 ◎ 展開②では、1・2班が観点D・3・4班が観点A、5・6班が観点B、7・8班が観点Cの説明文（展開①の成果物）に対し、根拠を探す。	
展開 ① (20)	○グループごとに、割り振られた観点について、小説における「木犀」の役割を考える。 ○グループとして説明文がまとまった後、リーダーが授業者から評価コメントを受ける。 ○授業者の評価を受けた後、説明文をシートに清書する。	アー① イー③ ウー④	・メンバーのそれぞれが考えを述べた後、グループとして整理させる。 ・必ず本文に根拠を見出しながら考えをまとめるよう、注意を喚起する。 ・清書に当たっては、説明文のみ書くよう指示する。	観察・ワークシート ○活発に意見交換をして、前向きに取り組んでいるか。 【関心・意欲・態度】 ○小説の〈方法〉が意識できているか。 【読むこと】 ○簡潔な表現でまとめることができているか。 【書くこと】

	○すべてのグループの清書が終わった段階で、8種の説明文を共有する。		・提示された説明文を、自分のワークシートに書き写すよう指示する。	【Cへの手だて】 グループ単位で指導助言。
展開 ② (15)	○グループごとに、割り当てられた説明文に対して、その根拠となる本文の表現を見つけ出す。 ○見つけ出した本文の根拠部分を、説明文が清書されたシートに書き入れる。 ○すべてのグループの作業が終わった段階で、検証結果を共有する。	アー① イー③	・本文の微細な表現にも注意を払い、できるだけ多くの根拠を挙げるよう指導する。 ・展開①および展開②の取り組みの意義を総括する。	観察・ワークシート ○活発に意見交換をして、前向きに取り組んでいるか。 【関心・意欲・態度】 ○小説の表現を丁寧に読むことができているか。 【読むこと】 【Cへの手だて】 グループ単位で指導助言。
展開 ③ (5)	○センター試験の設問にチャレンジする。	イー③	・これまでの主体的な読解を反映させるよう指示する。 ・「適当でないもの」を選ぶ設問要求の特徴を解説しつつ、選択肢を吟味して補足する。	観察
まとめ (5)	○本単元の学習全体を振り返る。	アー①	・小説を主体的に読むことが、小説の深い理解や鑑賞に不可欠であること、入試問題の正解を導くことにもつながる点を意識させる。	観察

【付記】

今回、このように投げ込み教材として単元を設定するにあたり、とりわけ、芥川龍之介「蜜柑」の解釈等々を整理するにあたり、早稲田大学文学学術院の十重田裕一教授および恵泉女学園大学人文学部の篠崎美生子准教授から有益な御助言を頂戴しましたので、ここに報告します。あわせて、篠崎氏から紹介していただいた、高橋龍夫「「蜜柑」における手法——「私」の存在の意味——」と平岡敏夫「「蜜柑」——アメリカの学生はどう受けとめたか——」（いずれも関口安義編『芥川龍之介作品論集成 第五巻 蜘蛛の糸』翰林書房 所収）という論文を参照し、授業の構想に反映させました。

三年・現代文
小説読解実践【芥川龍之介「蜜柑」】・ワークシート

三年（ ）組（ ）番・氏名（ ）

課題1 導入

- ① 「蜜柑」というものが一般的に喚起する〈イメージ〉を、考えられるだけすべて書き出しなさい。
〈考えるヒント〉 季節・色合い・味わい・手ざわり・「蜜柑」のある風景・食後感……

- ② 「蜜柑」という題名を持つ小説に、どのようなストーリーを〈期待〉するか。自由にメモしなさい。

課題2 読解作業

- ◎ 次の作業を施しながら、本文を読解しなさい。

【人物像とシチュエーション】
小説の設定条件となる表現……ラインマーキング
a 人物像
b 時代背景・環境
c 人間関係

【登場人物の心情表現】
主人公の心情表現……
他の人物（脇役）の心情表現……
○囲み
▽囲み

課題3 メイン学習——「蜜柑」の役割を〈読む〉

- ◎ 「蜜柑」が描かれる前と後とでは、Ⅰ「主人公『私』」の基本的心情・Ⅱ「主人公『私』」の『小娘』に対する心情・Ⅲ「小説全体の雰囲気（色調）」にどのような変化があるかを〈読む〉ために、この項目に関連して情報を与えてくれる本文中の表現を、見つけられるだけすべて書き抜きなさい。

	Ⅲ 小説全体の 雰囲気（色調）	Ⅱ 主人公「私」の 「小娘」に対する心情	Ⅰ 主人公「私」の 基本的的心情	
				【BEFORE】「蜜柑」の登場前
				【AFTER】「蜜柑」の登場後

課題4 発展学習——〈象徴〉について

- ① この小説で、「蜜柑」は何を〈象徴〉するものとして描かれているか。そう言える根拠も含めて、考えなさい。

- ② 空欄【X】を埋めるのに適当な語句を、本文中から見つけ出して書き抜きなさい。

小説読解実践【野呂邦暢「白桃」】・ワークシート

三年（ ）組（ ）番・氏名（ ）

課題1 導入

◎ 「白桃」と「木屋」とに共通する〈イメージ〉や〈特徴〉を、考えて書きなさい。

課題2 読解作業

◎ 次の作業を施しながら、本文を読解しなさい。

【人物像とシチュエーション】

小説の設定条件となる表現……ラインマーキング

- a 人物像
- b 時代背景・環境
- c 人間関係

【登場人物の心情表現】

主人公の心情表現……○囲み
他の人物（脇役）の心情表現……▽囲み

課題3 メイン学習——「木屋」の役割を〈読む〉

◎ この文章において「木屋」はどのような役割を果たしているか。次の四つの観点から考え、説明文を作成し、あわせて、そのように言える根拠となる本文中の表現を指摘しなさい。

【観点A】「兄」の様子に対する影響

【観点B】「弟」の様子に対する影響

【観点C】「兄」と「弟」の関係・結びつきに対する影響

【観点D】小説世界の雰囲気・トーンに対する影響

芥川龍之介「蜜柑」での学習をふまえて、[BEFORE] ↓ [AFTER] の〈変化〉に注目しよう！

								自分の答え 説明文
D		C		B		A		観点
8	7	6	5	4	3	2	1	班
								説明文 グループの答え
								根拠となる表現